

第 20 回佐久新校再編実施計画懇話会

日時：令和 6 年 4 月 23 日（火）
午後 6 時から午後 7 時 45 分
会場：長野県佐久合同庁舎講堂

<次 第>

1 開 会

2 挨拶

3 新構成員・事務局員自己紹介

4 会議事項

(1) 第 19 回佐久新校再編実施計画懇話会まとめについて

(2) 施設整備基本計画策定について

(3) 検討項目の整理

・基本計画について

(4) ワークショップの報告

5 その他

第 21 回佐久新校再編実施計画懇話会について

【日時】令和 6 年 6 月の実施で調整

【会場】現在調整中

6 閉 会

佐久新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

○ = 新構成員

区分	氏名	所属等
自治体	畠山 啓二	佐久市 副市長
	吉岡 道明	佐久市教育委員会 教育長
	○油井 敏弘	南佐久郡町村教育委員会連絡協議会 会長
産業界	坂川 和志	佐久商工会議所 副会頭
	渡辺 仁	佐久総合病院 統括院長
	白鳥 敬日瑚	マイクロストーン株式会社 代表取締役社長
学識 経験者	○坂江 千寿子	佐久大学 学長
地域	廣末 恵子	社会医療法人恵仁会 医師
	原 啓明	佐久地域振興局 局長
同窓会	吉岡 徹	野沢北高等学校同窓会 会長
	長田 芳子	野沢南高等学校同窓会 会長
PTA	市川 俊一	野沢北高等学校PTA 会長
	山越 あゆみ	野沢南高等学校PTA 会長
	竹内 由貴	全佐久PTA連合会 会長
学校 関係者	○小林 秀樹	佐久中学校長会 会長
	○高橋 幸彦	佐久小学校長会 会長
再編 対象校	嵯峨 優空	野沢北高等学校 生徒会長
	林 広陽	野沢北高等学校 生徒会副会長
	木内 あかり	野沢北高等学校 生徒会副会長
	佐藤 佳乃	野沢南高等学校 生徒会長
	川本 舞	野沢南高等学校 生徒会副会長
	西澤 克弥	野沢南高等学校 生徒会副会長
	柳沢 敬	野沢北高等学校 校長
	山下 純一	野沢北高等学校 教諭
	中村 信秋	野沢南高等学校 校長
	臼田 賢治	野沢南高等学校 教諭

事務局

○ = 新事務局員

野沢北高等学校		野沢南高等学校		高校再編推進室	
○田中 聡	(教頭)・事務局長	橋爪 俊彦	(全・教頭)・副事務局長	井出 敦	主幹指導主事
山下 純一		○清水 徹	(定・教頭)	○土橋 邦彦	主任指導主事 (佐久新校担当)
○澤田 浩文		臼田 賢治		有坂 清明	主任指導主事 (佐久新校副担当)
○赤羽根 弦		○林 直孝			
清水 貴弘		○成田 明			
		山口 達之			

第19回 佐久新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和6年(2024年)3月28日(木) 18時00分~20時00分
場所	長野県佐久合同庁舎 講堂
出席 (敬称略)	畠山啓二, 吉岡道明, 榊祐史(代理: 関武登), 坂川和志, 渡辺仁, 白鳥敬日瑚, 堀内ふき, 廣末恵子, 原啓明, 吉岡徹, 長田芳子, 市川俊一, 山越あゆみ, 森泉雄二, 嵯峨優空, 林広陽, 木内あかり, 佐藤佳乃, 河本舞, 西澤克弥, 柳沢敬, 山下純一, 中村信秋, 白田賢治 以上24名
傍聴者	17名
事務局	野沢北高校: 野村教頭(事務局長), 阿藤教諭, 神岡教諭, 清水教諭 野沢南高校: 橋爪教頭(副事務局長), 市川教諭, 渡邊教諭, 山口教諭 県教育委員会: 宮澤室長, 堀田企画幹, 柳澤主幹指導主事, 井出主任指導主事, 有坂主任指導主事
当日資料	次第, 第18回懇話会まとめ, 校地拡幅の必要性についての検討状況, ワークショップ報告書, 配置計画・建替え計画・平面計画 (座長より) 校地選定結果について

会議事項

- 第18回佐久新校再編実施計画懇話会まとめ
- 前回出された意見に対する検討状況報告
 - 統合方法
 - 通学の利便性向上
 - 校地拡幅と施設整備基本計画
- 佐久新校施設整備について
 - 現時点での配置計画
 - 意見交換
- 令和6年度の予定について

主な内容(要旨) → 県教委回答

<統合方法について>

県教委から佐久新校の統合は年次統合が適していると判断したと報告。

<通学の利便性の向上について>

県教委から通学の利便性向上に向けてバス事業者や佐久市との協議を継続していくと報告。

- 通学の利便性や安全性は独立した問題ではなく、校地拡幅問題や施設整備と密接に関わってくると思う。
→そのあたりを含めて検討していくことになる。

<校地拡幅と基本計画について> 資料を基に説明

- 学びを充実させるためには安全に登校してもらうことが大切。
- 探究的な学びの実現、単位制、定時制、体育施設、部活動の面から考えると広くて大きい方が良いと思う。
- 配置計画検討案をここで説明してもらいたい。

<配置計画・建替え計画・平面計画の説明> 設計チームより資料とスライドを用いて説明

設計チームからの説明の概要

- ・あくまでも現段階のもので、ワークショップや懇話会での意見交換を踏まえてブラッシュアップする。
- ・C案を基にすると2段階整備で仮設校舎に普通教室をつくらなくて済むというのが最大のメリット。
- ・フェーズ1で完成する校舎は令和9年度後半から野沢北高校の生徒が使用する前提で考えている。
- ・技術者の意見としては、仮に校地が広がったとしても現在の校舎配置計画は大きくは変わらない。生徒の授業間の移動を考えると、校舎はコンパクトにまとめた方が良い。広がった校地におくのはロータリー、駐車場。またはハンドボールコートや弓道場をもって行ってグラウンドを広く使うのがよいのではないか。
- ・駐車場が移動できれば、その分「班活のひろば」が広くでき、生徒の屋外での活動がしやすくなるというメリットもある。
- ・敷地が決まらないから計画を進めないというのは反対。特に校舎部分については、新校の新しい学びに対する検討を進めていきたい。
- ・現在の校舎はトイレや空調、バリアフリーなどに課題があり、学習環境としては厳しい状態のため、少しでも早く新しい校舎に入ることができるということを重視した方が良いのではないかと考えている。

＜引き続き校地拡幅と基本計画についての意見交換＞

- 安全性と校舎整備は一体であるべきで、県教委の言う、切り離して検討するという考えには違和感がある。必要性の検討のための一定の時間とはどのくらいか。
 - 開校年度に野沢北校地に新校にふさわしい学習空間を整備する、それと並行して、校地拡幅については通学の安全性の確保のための必要性を含めて検討していきたいとして考えをお示しした。必要性のための検討は今後おおよそ1年間程度の時間を頂戴したい。
- C案はよいと思うが、工事車両はどこから入るのか。工事中の生徒の安全も考えなければならない。
- 今後中込駅周辺が車で混雑する。生徒はバスで、西側に校地を広げてそこから入るのが良いと思う。また駐車場が西側に行けば空いた敷地を有効に使えるのではないかな。
- 野沢中学校の生徒の安全性も考えなければならないのではないかな。
- 佐久から高校生が出ていってしまうことを危惧している。新たな学びを実現するためのメディアセンター、地域連携協働室といった空間を充実させることを大事に考えてほしい。
- 小体育館がない期間が発生するが、それについての対策を考えてほしい。
- 高校を選ぶのは中学3年生。中学生の意見をたくさん聞いたらどうか。
- 駐車場の出入口を広くしたり、増やした方がよいのではないかな。
- 設計チームの案は在校生の学びを確保するという点で大変魅力的。新しい学びを実現するという点でも工夫を凝らしている。
- 並行して校地拡張を考えていくということの「並行」とはどのような意味か。第2期工事までのところで校地拡幅が決まれば計画が変わるということがあるのかな。
 - 校地拡幅の必要性について施設整備の基本計画と並行する形と申し上げた。工事にどのように関わってくるか、設計変更が可能かということについては、ここでは答えは持ち合わせていない。
(座長より) 次回の懇話会で考えを示してほしい。

＜令和6年度の予定について＞ 資料を基に説明

- 4月の懇話会では基本計画(案)が示されるのか。基本計画とはどのようなものかな。
 - 次回懇話会の意見交換を踏まえて案を作成していく。
- 案はいつ懇話会に示されるのか。
 - 基本計画策定に向けて、必要な意見交換を行っていく。次回以降の懇話会の設定を4月及び6月と説明したが、必要に応じて回数を増やし、懇話会での意見交換を行っていく。
(座長より) 基本計画とは何か、計画がどこまで変更できるのか、次回説明してほしい。

その他

【次回】第20回懇話会

日程：令和6年4月23日(火) 午後6時から

内容：施設整備に係る意見交換

旧第5通学区中学校卒業生数およびクラス数の推移

長野県教育委員会 高校教育課
(単位：人)

	2017年 H29	2018年 H30	2019年 R1	2020年 R2	2021年 R3	2022年 R4	2023年 R5	2024年 R6	2025年 R7	2026年 R8	2027年 R9	2028年 R10	2029年 R11	2030年 R12	2031年 R13	2032年 R14	2033年 R15	2034年 R16	2035年 R17
5区	1938	1,829	1,799	1,826	1,742	1,711	1,709	1,675	1,579	1,620	1,653	1,601	1,570	1,578	1,525	1,384	1,393	1,317	1,273
前年度比 増減	—	-109	-30	27	-84	-31	-2	-34	-96	41	33	-52	-31	8	-53	-141	9	-76	-44

(注1) 2017年～2023年については、それぞれ前年度の学校基本調査による数。

(注2) 2024年～2032年は、2023年度学校基本調査による数。2033年～2035年は2023年度長野県人口異動調査（令和5年4月1日現在）による数。

○旧通学区別 クラス数

旧第 5 通学区

通学区		学校名	募集学級数							
			H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6
現	旧		2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
2	5	上田千曲	7	7	7	7	6	6	6	6
		上田	8	8	8	8	8	8	8	8
		上田染谷丘	8	7	7	7	7	7	7	7
		上田東	8	7	7	7	7	7	7	7
		丸子修学館	6	6	6	6	6	6	6	5
		東御清翔(昼)	3	3	3	3	3	3	3	3
募集学級数計			40	38	38	38	37	37	37	36

旧第6通学区中学校卒業生数およびクラス数の推移

長野県教育委員会 高校教育課
(単位：人)

	2017年 H29	2018年 H30	2019年 R1	2020年 R2	2021年 R3	2022年 R4	2023年 R5	2024年 R6	2025年 R7	2026年 R8	2027年 R9	2028年 R10	2029年 R11	2030年 R12	2031年 R13	2032年 R14	2033年 R15	2034年 R16	2035年 R17
6区	2047	1,966	1,949	1,874	1,799	1,887	1,825	1,813	1,783	1,846	1,748	1,743	1,807	1,712	1,697	1,646	1,610	1,492	1,383
前年度比 増減	—	-81	-17	-75	-75	88	-62	-12	-30	63	-98	-5	64	-95	-15	-51	-36	-118	-109

(注1) 2017年～2023年については、それぞれ前年度の学校基本調査による数。

(注2) 2024年～2032年は、2023年度学校基本調査による数。2033年～2035年は2023年度長野県人口異動調査（令和5年4月1日現在）による数。

○旧通学区別 クラス数

旧第 6 通学区

通学区		学校名	募集学級数							
			H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6
現	旧		2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
2	6	蓼科	3	3	3	2	2	2	2	2
		望月	2	2						
		小諸商業	4	4	4	4	4	4	3	3
		小諸	6	5	5	5	5	5	5	4
		軽井沢	3	3	3	3	2	2	2	2
		佐総(浅間キャンパス)	5	5	5	5	5	5	5	5
		佐総(白田キャンパス)	2	2	2	2	2	2	2	2
		岩村田	5	5	5	5	5	5	5	5
		野沢北	5	5	5	5	5	5	5	5
		野沢南	5	5	5	5	5	5	5	4
		小海	3	3	3	3	2	2	2	2
募集学級数計			43	42	40	39	37	37	36	34

●施設整備基本計画について

- 基本計画の目的：

設計の基本方針、施設性能、施設規模を確定させること

- 基本計画書に記載する内容：

①事業の目的、②教育研究の効果（学びのイメージ）、
③敷地条件、④施設規模・位置、⑤必要諸室、⑥機能関連図、
⑦事業スケジュール、⑧概略の必要経費 等

引用・参考：文部科学省「国立大学等施設の設計に関する検討会報告書」 平成26年3月

イメージ

家を建てる場合を考えると・・・

- ①大人2人、子ども2人で静かに住む。
- ②家族が毎日顔を合わせて生活できる。
- ③●●市▲▲町◆番地の自身の所有地。角地。
- ④木造2階建て。敷地北側に建てて南側を駐車場にする。
- ⑤3LDK。1階はLDK、風呂。2階に寝室と子ども部屋。それぞれにトイレ。
- ⑥ZEH。オール電化。太陽光パネル必須。
- ⑦長女の小学校入学前に引っ越したいので、1年6か月以内。
- ⑧3千万円

●施設整備基本計画決定後の流れ

- 基本計画終了後 → 基本設計 → 実施設計 → 工事
- 基本設計の目的：
基本計画の内容を踏まえ、空間を具体化しながら法令上、意匠上、技術上の課題を検討し設計内容を確定させる
- 基本設計図書に記載する内容：
 - ①設計図（配置図、平面図、立面図、断面図 等）、
 - ②各種計画（外観デザイン、動線、構造、防災、電気設備、機械設備、外構 等）
- 実施設計の目的：
基本設計に基づき、建物の施工に必要な**設計図書や各種計算書等を作成する**

●施設整備基本計画で決定した事項の変更について

- ・骨格に関わることは影響が大きく修正が困難。
軽微な修正は可能。



探究学習や地域連携に関わる方がWSに参加、地域の方も傍聴



地域と連携した探究学習について話し合うWSを実施

○参加者：

- ・ 探究学習や地域連携に関わるみなさん
- ・ 野沢北高校・野沢南高校同窓会のみなさん
- ・ 長野県教育委員会
- +設計JVチーム（ファシリテーター） 合計42名

2024年3月16日、佐久合同庁舎講堂にて、佐久新校の基本計画策定に向けた第2回目となるワークショップを開催いたしました。今回は、探究学習や地域連携に関わる方々にお集まりいただき、北高・南高の探究学習の内容や地域連携空間の先進事例を紹介し、その後4つのグループに分かれて新校での「地域と連携した探究学習」をテーマとしたグループディスカッションを実施しました。

年度末の忙しい時期にもかかわらず、約30名の方々にご参加いただき、活発な意見交換と情報共有がなされました。また、地域の方々にも会場でワークショップの様子をご覧いただきました。

●ワークショップの概要と目的

- 北高・南高の探究学習実施状況紹介：
 - ・ 各校の探究学習の目的や内容について、現状の課題やこれから取り組んでみたいことを知り、今後の関わり方を考える
- 地域連携の先進事例紹介：
 - ・ 新校での地域と連携した探究学習についてイメージを膨らませるために、どんな関わり方や在り方があるかを知る
- 地域と連携した探究学習についての意見交換：
 - ・ 佐久新校で地域と連携した学びを実現するために「探究学習」に着目し、佐久地域ならではのテーマや学校と地域の関わり方についてアイデアを出し合い、今後の佐久新校施設計画の検討に活かす

●当日の流れ

1. 開催の挨拶・計画案の概要説明

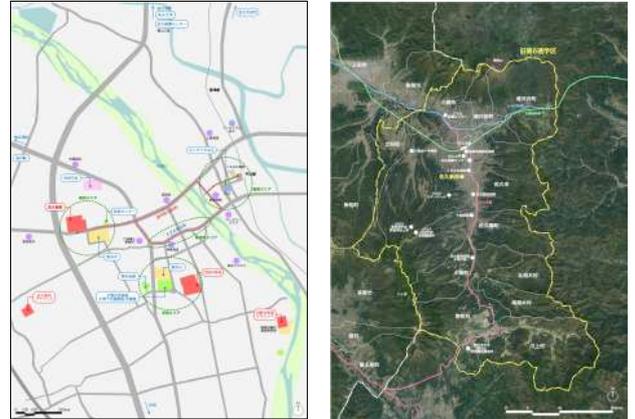
- ・長野県教育委員会より、NSDプロジェクトの概要や理念、佐久新校の概要を説明し、設計チームより、プロポーザル時の計画案、学校や県との打合せを経て現在検討している配置計画案について説明しました。
- ・ご覧いただいた地域の方からの意見を伺うため、アンケート（WEBと紙面）の記入方法について説明しました。



両校の担当教員より探究学習の紹介

2. 先進事例の紹介

- ・新校の施設整備における、建築計画アドバイザーである伊藤俊介先生（東京電機大学教授）より、学校施設における地域連携や地域共創に関する先進事例を紹介しました。
- ・「見せる」「居る」「関わる」をキーワードに、国内外の学校事例から、探究プロセスや成果の見せ方、生徒の居場所、地域と学校との接点のつくり方やそのための空間についてレクチャーしていただきました。



関連施設が記載された新校の周辺や旧第6通学区のマップを用意

3. 各校の探究学習実施状況の紹介

- ・野沢北高校は神岡先生、野沢南高校は渡邊先生より、各校で行われている探究学習の実施状況を紹介いただきました。
- ・北高では連携企業とのワークショップで地域課題や企業課題を見つけ探究に取り組むこと、南高では自由テーマのもと最大1年半かけて探究に取り組むことがわかりました。



活発な意見交換

4. グループディスカッションの実施

4-1. ディスカッションのテーマと方法

- ・参加者をA班～D班の4グループに分け、地域連携・探究学習に関する以下のテーマについてグループディスカッションを行いました。

- テーマ①：地域と連携した探究学習とは
- テーマ②：地域と連携した探究学習にふさわしい空間とは
- テーマ③：佐久らしい、佐久ならではの地域連携・探究学習とは

- ・各テーマについて、「今まで」と「これから」の視点から、現状の取り組みや課題、新校でのアイデアなどを話し合い、新校における地域連携・探究学習の在り方や空間について議論を深めました。



配置図でも説明しながら、テーマに沿って考える

4-2. 成果の発表・共有

- ・各グループで出された意見を取りまとめ、グループ代表者が発表し、参加者全員で意見を共有しました。グループごとに独自の意見やアイデアも多く発表され、互いに新たな気づきを得ることができました。
- ・会場からもアンケートを集め、「下足のまま校舎に入るとよい」などの意見が寄せられました。



WEBに寄せられた会場からの意見をスクリーンで共有

●グループディスカッションでの各班の意見（抜粋）

○A班

[地域と連携した探究学習とは]

- ・ 探究サポーターとして空き家問題をテーマとして扱った
- ・ 具体的な課題を地域から提示したらどうか

[地域と連携した探究学習にふさわしい空間とは]

- ・ 地域の人とのコミュニティの場所として開放したい
- ・ 校舎を作り込みすぎず、生徒みんなで使い方を考えるのがよいのではないか
- ・ 学校だけでなく連携企業にも探究の部屋があったらよい

[佐久らしい、佐久ならではの地域連携・探究学習とは]

- ・ 「宇宙」や「医療」などのテーマは生徒全員で取り組むのはどうか、地域課題を扱う授業も考えている
- ・ 南佐久のキーワードとして「水」資源がある。地域のテーマになるかも

○B班

[地域と連携した探究学習とは]

- ・ 地域連携をするために、地域の人や地域の人材を知る必要があるのでは
- ・ 地域の高度な技術や知的財産の活用

[地域と連携した探究学習にふさわしい空間とは]

- ・ 生徒の探究学習の成果物や制作風景が見られるとよい
- ・ 番組制作ができるスタジオ、動画編集室を設けるとよい

[佐久らしい、佐久ならではの地域連携・探究学習とは]

- ・ 地元企業と協働でイルミネーションの制作をしている
- ・ 佐久の自然や災害、地形の特色や歴史について
- ・ 中込のグリーンモールで実施している社会実験やワーキングスペースなど、地域で行われているさまざまな取り組みや場所、人との連携

○C班

[地域と連携した探究学習とは]

- ・ 地域の人材のデータベースを作ったら連携しやすい
- ・ 地域の人が学び直しできる機会になってもよい

[地域と連携した探究学習にふさわしい空間とは]

- ・ 地域連携協働室はリモートワークしている人の居場所になるとよい
- ・ 校内に入って良い人なのか判断するセキュリティが必要
- ・ PJルームは可動間仕切りを入れて、拡張性や汎用性のある空間にしたい

[佐久らしい、佐久ならではの地域連携・探究学習とは]

- ・ 佐久市発行の「佐久の先人」と連携して、地域を知る機会を作っている
- ・ 地域連携により佐久の豊かな自然を残していきたい

○D班

[地域と連携した探究学習とは]

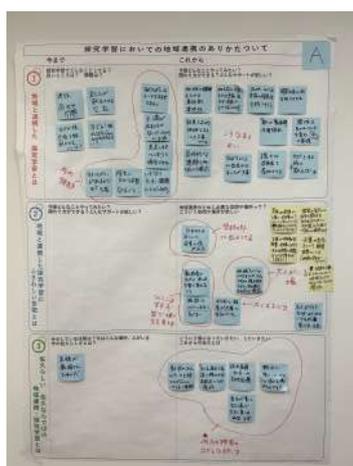
- ・ 現状、アポイントや場所の確保・調整が難しいので、もっと気軽に活動したい
- ・ 地域の人材の認知度が低いので参加しやすい工夫がほしい
- ・ 進級や進学しても、中期、長期的に共同研究がしたい

[地域と連携した探究学習にふさわしい空間とは]

- ・ 探究学習で学んだことを大学に繋げていくための進路指導もできる空間がほしい
- ・ 中学生が来たり、中学生に活動が見える空間がほしい

[佐久らしい、佐久ならではの地域連携・探究学習とは]

- ・ 佐久の特産物、歴史、料理を知る講師がいてほしい
- ・ 地域コーディネーター同士が連携できる、ネットワークを構築したい



A班



B班



C班



D班

●総評・まとめ（ファシリテーター：ガド建築設計事務所 新井晃より）

今回の地域ワークショップでは、年齢や職業、さまざまな立場の皆様と新校での探究学習、そのための空間の在り方、佐久らしい学びについて議論し、意見を共有しました。探究の学びにおいて地域の協力と連携は不可欠です。学びのソフト、ハードの両面から活発な意見交換がなされたことは、佐久新校に対する熱い思いや期待、希望の表れだと強く感じます。人にも場所にも恵まれた佐久地域でこそできる「学び」と「空間」とはどうあるべきか、参加された一人ひとりが改めて考え直す機会になったのではないのでしょうか。



両校から17名の生徒が参加し、新校について意見交換



参加者全員でアイデアやイメージを共有

○参加者：

- ・野沢北高校・野沢南高校の1,2年生のみなさん
- ・長野県教育委員会
- +設計JVチーム（ファシリテーター） 合計約26名

2024年3月21日、野沢北高校岳南会館にて、佐久新校の基本計画策定に向けたワークショップが開催されました。第3回目となる今回は、野沢北高校、野沢南高校の生徒を対象に、学校施設における学習空間・生活空間に関する先進事例のレクチャーを行い、そこから教室まわりやメディアセンター、地域連携ゾーンについてグループディスカッションを実施しました。

2年生だけでなく1年生にも参加いただき、和やかな雰囲気の中、学校や学年の垣根を越えて、率直で活発な意見交換がなされました。

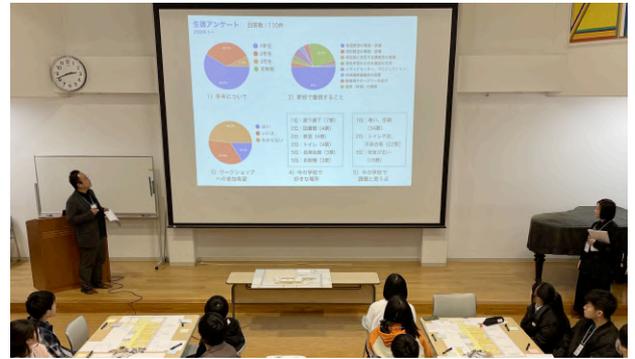
●ワークショップの概要と目的

- 学びの空間と生活の空間の先進事例紹介：
 - ・ 先進事例から、新校での学び・生活の在り方、卒業後の新校との関わり方についてイメージを膨らませてもらう
- 普通教室やメディアセンターの学び・生活の場としての在り方についての意見交換：
 - ・ 両校の在校生として、新校の学びの場・生活の場について求める環境や空間の在り方、課題について、アイデアや意見を出してもらうことで、今後の学校施設計画の検討に活かす

●当日の流れ

1. 開催の挨拶・計画案の概要説明

- ・長野県教育委員会より開催の挨拶をしたのち、設計チームより、佐久新校についてプロポーザル時の計画案を紹介しました。加えて、新校の整備スケジュールや、卒業後の新校との関わり方の可能性について説明しました。



生徒アンケートを集計し、グラフ化して紹介

2. アンケート結果の紹介

- ・今年1月頃に両校の生徒を対象に実施した、学校施設に関するアンケートの集計結果を紹介しました。
- ・「新校で期待するもの」としては普通教室の環境・設備の充実を求める意見、「今の校舎で課題と思うこと」に対しては、校舎内の寒さ・空調、トイレの不足を課題として挙げる回答が多いという結果でした。



先進的な学校事例紹介を真剣に聞く様子

3. 先進事例の紹介

- ・設計チームより、学校施設における学習空間・生活空間に関する先進事例を紹介しました。
- ・国内外の学校事例から、フレキシブルで多機能な教室、教室まわりの生徒の居場所となる空間、デジタル等も活用しながら、生徒が自由に学びを深めていける空間や仕組みについてレクチャーしました。



最初に自己紹介をして親睦を深めました

4. グループディスカッションの実施

4-1. ディスカッションのテーマと方法

『新校の学び・生活について考える』

- ・参加者を3つのグループに分け、以下のテーマについて各グループでディスカッションを行いました。

テーマ①：「普通教室・ロッカーワークラウンジ」

テーマ②：「メディアセンター・カフェ・地域連携ゾーン」

- ・上記テーマで対象となる場所について、授業や探究学習、自習等を行う「学び」の環境としての観点、また休み時間や放課後を過ごす「生活」の環境としての観点から、「こういう空間がほしい」「こういう設備がほしい」「ここが気になる」などのアイデアや意見を出し合って議論を深めました。



学校や学年の垣根を越えて自由な意見交換

4-2. 成果の発表・共有

- ・グループごとに発表者を選出し、出された意見を取りまとめて発表してもらい、参加者全員で意見の共有を行いました。
- ・現在の校舎に対する課題意識から、お昼ごはんを食べる場所や探究学習、自習を行う場所の充実だけでなく、交通や防災、バリアフリーなどの様々な視点からアイデアや意見が出されました。



両校で協力しながら各グループの意見を発表



発表に向け、出し合ったアイデアをみんなでまとめる

●グループディスカッションでの各班の意見（抜粋）

○Aグループ

[普通教室まわり]

- ・ロッカーワークラウンジは探究のグループワークを行う場所としても使えそう
- ・教室の近くでお湯が出るところがあると、お昼ごはんのときに便利
- ・車椅子の生徒もいるので、バリアフリーとしてエレベーターや多目的トイレなどを設置してほしい

[メディアセンターまわり]

- ・閉じた室ではなく、天井が高く、明るくオープンな図書室になれば利用者も増えると思う
- ・行けば確実に静かに自習ができる場所がほしい
- ・オンライン会議ができる場所を増やしてほしい
- ・カフェテリアがあると集まってお昼ごはんが食べられてよい

○Bグループ

[普通教室まわり]

- ・全体的に教室を広くしてほしい
- ・廊下がうるさいと授業中に迷惑なので、教室の扉は防音対策をしてほしい
- ・先生を見つけやすく、呼びにいきやすいように大職員室にしてほしい

[メディアセンターまわり]

- ・友達とわいわいできる場所とひとりで静かに自習ができる場所がそれぞれほしい
- ・カフェに売店を設置してほしい
- ・空き時間や班活などでも使用できるので、中庭（探究のひろば）があるとよい
- ・バスやレンタサイクルなど、駅から高校の移動手段がほしい

○Cグループ

[普通教室まわり]

- ・仮眠やリラックスができるスペースがほしい
- ・場所ごとに自習スペースの性格を変えてはどうか
- ・教室内の様子が少し見えるようになると入りやすい
- ・大職員室以外にも先生に相談できるスペースがほしい

[メディアセンターまわり]

- ・無人コンビニで経営など、金銭感覚が学べるのはよい
- ・専門性のある授業や教室がほしい
- ・卒業した後も先生に会いに来やすいようにしてほしい
- ・北高らしさ、南高らしさを残してほしい、つくってほしい

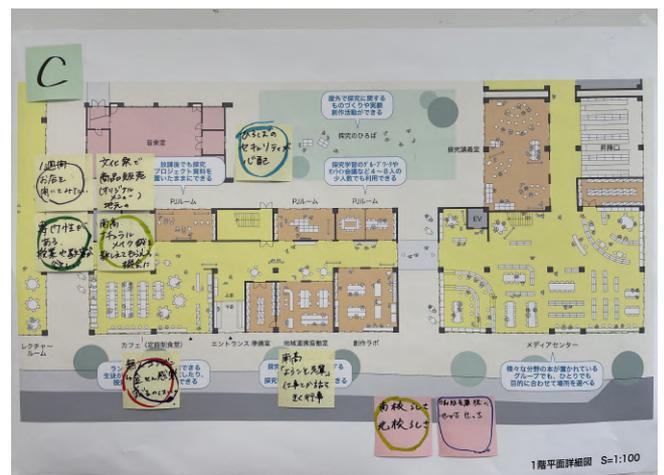
○各グループの成果品（一部）：



メディアセンターまわりについて（Aグループ）



普通教室まわりについて（Bグループ）



メディアセンターまわりについて（Cグループ）

●総評・まとめ（ファシリテーター：SALHAUS 品田礼希より）

野沢北高校、野沢南高校の生徒たちが高校生活を過ごす中で今感じていること、佐久新校への希望や不安など、学校や学年を越えて率直に意見を交わす様子が印象的でした。在校生の皆さんから直接意見やアイデアが聞けたことは、設計チームにとっても貴重な機会になりました。新校が開校するときには、今在学中の高校生の皆さんは大学生や社会人になります。ワークショップを通じて、新校を「母校」と思ってもらえるように学校づくりに参加していただき、卒業後も新しくなった学校と関わるきっかけになればと思っています。来年度以降も様々なワークショップを企画予定です。ぜひ、友達を誘ってご参加ください。



今回WSに初参加される先生もいらっしゃいました



教育現場に立つ視点から具体的な意見が出されました

○参加者：

- ・野沢北高校・野沢南高校の教職員のみなさん
- ・長野県教育委員会
- +設計JVチーム（ファシリテーター） 合計30名

2024年3月28日、野沢北高校岳南会館にて、佐久新校の基本計画策定に向けたワークショップを開催いたしました。第4回目となる今回は、野沢北高校、野沢南高校の教職員を対象に、これまでのワークショップの概要、最新の配置計画案を説明し、特別教室や教職員の執務空間に関する先進事例のレクチャーを行いました。その後、最新案をもとに特別教室やメディアセンター、執務空間を中心にグループディスカッションを実施しました。

様々な教科や職務の方にご参加いただき、具体的な意見交換がなされました。

●ワークショップの概要と目的

- 最新の配置計画案の説明：
 - ・県と学校と検討を重ねてきた配置案や特別教室の再編について説明し、新校での学びに向けた考え方を知る
- 特別教室と執務空間の先進事例紹介
 - ・教科横断を支える特別教室の事例、大職員室での働き方や、教室周りの教員の居場所のつくり方の事例を紹介し、イメージを膨らませてもらう
- 最新の配置計画案についての意見交換：
 - ・特別教室再編の考え方やそのプラン、メディアセンターや執務空間の在り方について意見や課題を出し合い、今後の佐久新校施設計画の検討に活かす

●当日の流れ

1. 開催の挨拶・ワークショップの報告

- ・長野県教育委員会より開催の挨拶をしたのち、設計チームより、3月に開催したワークショップの様子を紹介しました。
- ・地域WSでは『地域と連携した探究学習とは』、生徒WSでは『学校での「学習」と「生活」を考えよう』というテーマのもと、活発に意見交換が行われたことを報告しました。

2. 検討の経緯と最新案の概要説明

- ・さまざまなパターンの配置計画を検討し、既存校舎との関係、駐車場、建替計画などの比較から、プロポーザル案に近い配置計画がよりよいのではないかと考えていることを説明しました。新校が開校する前に校舎の一部を使用でき、学習環境が維持されることもメリットのひとつです。
- ・教科ごとではなく教室の特徴に合わせて特別教室を再編し、重ね使いも想定することで、教科の枠組を越えた学びに柔軟に対応できるようにすることを提案しました。

3. 先進事例の紹介

- ・新校の施設整備における建築計画アドバイザーである伊藤俊介先生（東京電機大学教授）より、特別教室と教員の執務空間に関する先進事例を紹介しました。
- ・国内外の学校事例を紹介していただき、異なる教科でもフレキシブルに使える特別教室、他の教科にも興味が湧く仕組みや空間、教職員が1日を過ごすための執務空間についてレクチャーしていただきました。

4. グループディスカッションの実施

4-1. ディスカッションのテーマと方法

『教科横断的な学び・教員の働く環境について考える』

- ・参加者を3つのグループに分け、以下のテーマについて各グループでディスカッションを行いました。

○テーマ①： 特別教室・地域共創・メディアセンターフロア

○テーマ②： 教職員の執務空間

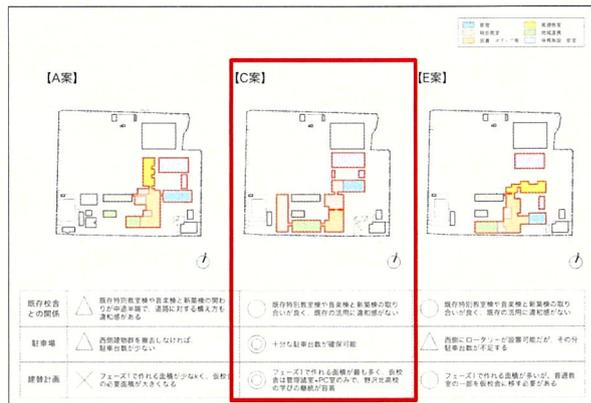
- ・各テーマで対象となる階の平面図を見ながら、授業中、授業前後の準備や片付け、探究学習・課題研究などの時間別の視点、教科担任や学級担任としての視点から、配置計画案に対して教室の位置や設備の要望、現在の校舎で感じている課題、新校で実現したいことなど、アイデアや意見を出し合って議論を深めました。

4-2. 成果の発表・共有

- ・各グループで出された意見を取りまとめ、グループ代表者が発表し、参加者全員で意見の共有を行いました。
- ・個別の教室に対して意見を述べるだけでなく、校舎全体の使い方や、生徒と接する時の空間的な配慮など、様々な視点からアイデアや意見が出されました。



設計チームより特別教室再編の考え方を説明



検討してきた配置案の比較



パースでイメージを共有しながら考える



出し合った意見を見直ししながら、グループの意見をまとめる



グループの代表者が発表し、各グループの意見を全体で共有

●グループディスカッションでの各班の意見（抜粋）

○Aグループ

[特別教室・地域共創・メディアセンター]

- ・教室内に標本や展示物がない方が授業に集中できる生徒もいると思うので、PJCにまとめて置けるのはよいと思う
- ・実験台にガス栓は必要だが、水栓は不要。窓側があればよい
- ・コミックや雑誌が読める、リラックスできる場所も必要
- ・昇降口をなくして、メディアセンターなどの面積に充てたい

[教職員の執務空間]

- ・大職員室は執務スペースだけでなく、生徒に見られず過ごせるスペースも欲しい
- ・大職員室に全員集まれるのであれば、広い会議室は不要かも
- ・相談室が1室では足りない。動線や視線などのプライバシーが確保できれば、空き教室を相談室として兼用可能

○各グループの成果（一部）：



教職員の執務空間について(Aグループ)

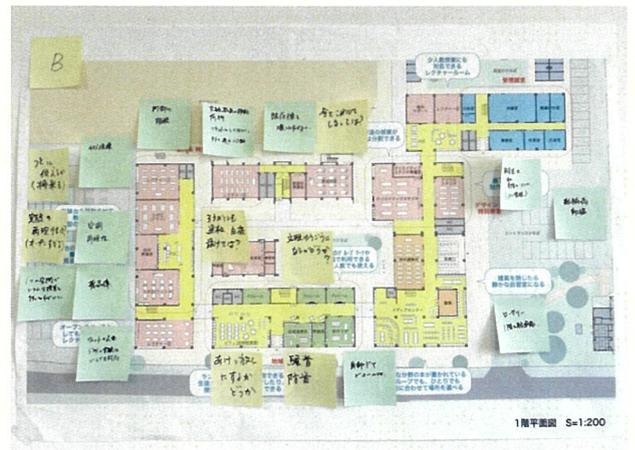
○Bグループ

[特別教室・地域共創・メディアセンター]

- ・文理融合を促すのであれば、一つの空間の中に異なる教科が散りばめられている配置が適しているのではないかと
- ・ウェットな実験室は専用で必要だが、ドライの実験室はどの教室でも対応可能
- ・生徒が触れないように鍵付きの棚がある薬品庫が必要

[教職員の執務空間]

- ・大職員室内に、教科会など特定の教員で集まれる場が欲しい
- ・個別指導を行う場所は必要。現在も教科準備室に質問に来る生徒が多い
- ・動画配信用の授業を撮影できる小さめの会議室が欲しい
- ・2階の進路指導室に模試や進路の書類を運ぶのは大変



特別教室・地域共創・メディアセンターについて(Bグループ)

○Cグループ

[特別教室・地域共創・メディアセンター]

- ・現在、美術と書道の時間割は重なっている。間仕切りで仕切った際に、粉塵や騒音の影響がないようにしてほしい
- ・PJルームは探究の授業の打合せでも使用できるので必要
- ・メディアセンターが道路側で、地域連携ゾーンにも近いのはよい。開放できるのであればさらによい

[教職員の執務空間]

- ・テスト期間には相談に来る生徒が増えるので、相談ラウンジを大きくしてほしい
- ・教職員全員は大職員室で集まれるので、少人数での会議や生徒との相談に対応できる小さい会議室が必要
- ・プライバシーに配慮した周囲に声が聞こえない相談室が必要



特別教室・地域共創・メディアセンターについて(Cグループ)

●総評・まとめ（ファシリテーター：SALHAUS 前田沙希より）

ワークショップに初参加される先生方もいらっしやり、前回よりも具体的かつ様々な立場で意見交換がなされました。これまでの学校とは異なる特別教室の考え方や執務空間は、想像しにくいところもあったのではないかと思います。ワークショップを通して、教室内の機能だけでなく、メディアセンターやプロジェクトセンターの使い方にも目が向けられ、少しずつイメージを掴んでもらえたと感じました。また、授業後の質問や進路の相談など、生徒との接点になる場面を多くの先生が気にかけておられたのも印象的でした。今回得られた先生方のアイデアやご意見を参考に、より良い学校をつくっていかれると思います。